

日本応用地質学会
岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

第2回議事録

平成20年1月31日

1. 日 時：平成19年1月31日(木)14:00～17:00
2. 場 所：応用地質学会事務局
3. 出席者：平野委員長、伊東、遠藤、岡崎、岸本、久野、桑原、小島、都築、綿谷、品川、江口
計12名
4. 資 料：
 - ・議事次第
 - ・資料2-1 第1回議事録（案）
 - ・資料2-2 作業工程案
 - ・資料2-3 目次案
 - ・資料2-4 作業分担案
5. 議 事：
 - 5-1 技術書の方向性について
平野委員長より技術書の方向性について、「人に読んでもらう本の書き方をする。基礎から積み上げて飛躍がないように書く」という方針が示された。
 - 5-2 前回議事録の確認
若干の表現の修正があったためその部分を修正することとした。
 - 5-3 作業工程の確認
幹事より作業工程案の説明があり、それについて以下の議論があった。
 - ・各委員が執筆に取りかかれるために、委員長と幹事で、技術書の執筆要領と、各章における執筆内容や方針を示した骨子案を作成し、2月中に各委員に示す。
 - ・4月に予定されている次回の小委員会で骨子案について議論する。
 - ・技術書の印刷を出版社へ依頼する方針であることを、次回の研究企画委員会に報告することとする。
 - ・一次原稿は2008年12月までに作成することとし、この後に査読、著作権処理を開始することとする。
 - ・2009年6月に外部へ査読を出すため、それまでに著作権の処理を終わらせることとする。
 - 5-4 技術書目次案および技術書執筆について
技術書目次案（修正版）の説明があり、審議の結果以下のように修正した。また、技術書の

執筆について以下の作業を行うこととした。

- ・第7章の「岩盤分類のための調査・計測」については技術書の流れから第4章「岩盤と工学的性質」のあとに配置することとした。
- ・5章岩盤分類各論の5.5その他については記載しないこととした。
- ・各論については各構造物について調査から施工までの流れをふまえ事例を書いた上で、問題点を洗い出したり、岩盤分類についての思想を述べるような書き方を心がける。
- ・平成19年度シンポジウム資料からの追加の作業内容を把握するため、平成19年度シンポジウム資料の目次と技術書目次案との対比表を作成することとした。
- ・平成19年度シンポジウム資料の著作権は学会にあるため、学会に平成19年度シンポジウム資料の引用許可の確認をとることとした。

5-5 分担案について

幹事より作業分担案の提案があり、審議の結果以下のように修正した。

- ・第1章は本の趣旨を説明する上で大事な箇所であることから、委員長と桑原委員で執筆することとした。
- ・第3章の「地質要素」と「地質現象」はそれぞれ関連性が深いことから別々に分けるのではなく、担当の5人の委員で意見を出し合いながら執筆することとした。
- ・地形要因については桑原委員、伊東委員、品川委員で執筆することとした。
- ・地下空洞については宮下委員が執筆することとした。
- ・新たな領域については、希望した委員がそれぞれ事例を小委員会内で発表し、技術書に記載するか否かを小委員会で決定することとした。
- ・一次原稿完成後、本としての全体の整合を図るため、編集WGを設立し、そこで数名の委員による全体的な読み合わせを行うこととした。
- ・「岩盤分類のための調査・計測」については希望者が自分の書きたい内容を骨子案として委員長に報告することとした。
- ・小委員会内で岩盤分類についての考え方について議論を行い、技術書に記載する考え方のすりあわせを行うこととした。

5-6 次回の開催について

次回の開催は平成20年4月18日（金）14:00から学会事務局で行うこととした。

また次回は、久野委員より平成19年度シンポジウム資料の第2章を題材にした岩盤分類の考え方についての議題と、江口より新たに分野についての話題提供を行うこととした。

以上